おやつのじかん３　ーちょっとひとやすみー

ーその気持ちに付き合うよー　　NO．34

子どもの育ちって、複雑なんですよね。「いまさら何を言うか！」と言われるかもしれませんが、出会う子ども一人ひとりにその子らしい育ちがあり、でも、ぶつかる壁みたいなものって似たところがあって。できるように、わかるようになってきたからこそ、今まで気にしていなかったことが気になって、つまずいてしまう場面が出てきている姿は、どの子にも少なからず見られます。

その困っている子どものパワーを、自分で乗り越えていくパワーに変えていく時期は、本人も、周りの大人も汗をたくさんかきますが、もがいている“けなげな”姿にジーンとしてしまうことも。

よく聞かれることがあります。「支援の仕方にもっと明確なマニュアルを作ってもいいんじゃないですか？」って。ご家族も支援者も、それがあれば対応にも困らないし、迷いも少なくて済むと思います。育ちの段階を踏まえた関わりの順序（マニュアル？）はあります。生活習慣面（食事・排泄・着替え等）には、働きかけの細かいステップがあって、子どもに無理なく、ご家族も手応えを掴みながら進めていくことができます。言語面も、その子のことばの理解の力を踏まえた関わり方、ことばの掛け方があり、その子にわかりやすく関わることで、楽しいやりとりにつなげていくことができます。遊びにも段階があります。用意するべきオモチャや関わり方を子どもに合わせることで、その場を楽しく過ごすことができ、少しずつ興味関心を引き出していけます。

でもね、子どもの“心”との付き合い方にマニュアルは作れるのでしょうか？みんな一人ひとり違う“人”です。何を見て何を感じて何に困っているのかは、同じような場面でも 100 人いれば 100 通りだと思います。唯一無二の存在ですから。

マニュアルとは言いませんが、子ども達が困っているときの関わり方で大切にしているポイントが４つあります。よろしければ参考にしてみてください。

まずひとつめ。『子どもの思いを聞くこと』です。「そうじゃないでしょ、こうでしょ！」と無理に動かさないで「どうしたの？」から入っていく姿勢です。引っ張り合うのではなく、隣りで肩を抱くような寄り添い方です。

２つ目は『気持ちに付きあってみること』です。「こうだったんだね」「そう感じちゃうんだね」と代弁しながら、時間をかけて落ち着くのを待ちます。その時に、背中をさするような『子どもの息づかいに合わせたスキンシップ』があると落ち着きます。これが３つ目です。リズム（波長）の合った相手には心地よさを感じるものですからね。

４つ目。取るべき行動を伝え、子どもを動かす前に、こちらに『寄りかかってもらう』ことです。「どう、落ち着いた？」「じゃあ行こうか」と、引っ張られる手に従うのではなく、自分から手を持って立ち上がれるように。納得して立ち上がれば、自分の足で進むことができます。もちろん、行ったり来たりはありますが、そこに時間をかけていきます。

「それこそマニュアルじゃないの？」と言われてしまうかもしれません。でも、マニュアルは、外からあてがわれたスキルみたいなものです。子どもの“心”と付き合うには、その子と話し合わなくちゃ。答えは子どもと並んで一緒に見つけていく。

これからもずっと、人の中で育ち、人の中で生きていくのですから。（Ｈ３１．３）Ｋ